

アビラ

平成 28 (2016) 年 9 月 21 日
在ベネズエラ日本国大使館
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

**学校にはいつも、わくわく感やどきどき感…がなければならぬと思います
新しいことが始まる予感、新しいものが生まれる感動、新しいものに出会える幸福！**

■ ■ 学校でかえったカエルのタマゴ ■ ■

正門横に観察池が出来て早2年、完全に自然の一部となりました。グッピーは数え切れないほど増え、時にはカエルやトンボが産卵に訪れるようになりました。そのカエルのタマゴは子どもたちの教材として大変役だっています。先日、またまたタマゴからオタマジャクシ、カエルへと育ちました。日本のカエルとはまた違った南米のカエルに、興味津々の子どもたちでした。



■ ■ もうすぐ食べ頃、校庭のバナナ ■ ■

学校の者なら誰もが知っている事実、それは学校のバナナの美味しさは格別だということです。収穫したバナナが家庭科室に吊してあります。食べ頃になったら、みんなで仲良く食べます。



■ ■ とっても仲よし！ハクとユキ ■ ■

初めて雌のユキを独りぼっちだった雄のハクの所に連れてきた日、ハクは私の所にやってきて頭を何度も何度もさげる仕草をしました。まるで「仲間を連れてきてくれてありがとう。」と言っているようでした。あれから約2週間、すっかり仲良しになりました♡♡♡



新しい本が到着！

■ ■ 新しい本が80冊も！ ■ ■

海外子女教育財団より、注文していた80冊の児童書が届きました。いよいよ今日から貸し出し開始です。日本で言えば読書の秋、たくさん本を読んで欲しいです。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために… (その125)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 20

前号で紹介しましたサイン帳には、草創期のカラカス日本人学校に勤務されていた先生方が、いよいよ学校を去る日に書かれた学校やベネズエラへの思いも残されています。そのいくつかをここに紹介します。「老いの身に 重き務めをつつがなく 果たして帰る カラカスの朝 (初代校長先生)」「ブーゲンビリアの咲き乱れる校庭をあとにして、二年半ぶりにサクラ咲く日本へ帰ります。帰りたくもあり、帰りたくもなし…。雨季を直前にしたバージェ・フレスコにて (初代派遣教員Y先生)」「楽しい3年間でした。有り難うございました。(H先生)」「皆様には大変お世話になりました。皆様方のご健康を、カラカス日本人学校の発展をお祈りしております。(S先生)」「3年は私にとって短い年月でした。カラカスにもっと住んでみたいになりました。(I先生)」「新校舎を見ずに帰国するのが残念です。これからもカラカス日本人学校がますます発展しますように。(S先生)」「一期一会。皆様の御多幸を心から念じ上げます。(T先生)」「新校舎での創造的教育活動と子どもたちの飛躍を期待します。(Y先生)」「祈 発展 (Y校長先生)」「学ぶ子らと 共にはげめしカラカスの思い出深しアビラ山 (H教頭先生)」「心 いつまでも美しく 技 いつまでも勉学に励み 体 いつまでも元気 そんな人間になりたい！ (A先生)」「帰国の日が近づくにつれ、カラカスの街の風景がひとつふたつと感慨深く目の中に映ってくる。そして、ひとつふたつと確実と去っていく。再びカラカスの街を見るその時は、きっとないだろう。もしそんなチャンスがあったなら、明るくきれいで平和な風景が私の目に飛び込んで来て欲しいと思う。Adios ! (K先生)」「光陰矢の如し この3年間ほど私にとって短く感じたことはかつてなかった。(S先生)」「(次号につづく)

老い身に重き務めを
つ、が、あ、く
来、て、帰、る
カラカスの朝
昭和五十五年三月二十日
初代校長
神谷 一 敬

ブーゲンビリアの咲き乱れる校庭を
あとにして、二年半ぶりに
サクラの咲く日本へ帰ります。
帰りたくもあり、帰りたくもなし。
雨季を直前にしたバージェ・フレスコにて
昭和五十五年三月二十日 湯浅 博